

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 18日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320053

研究課題名（和文）ペルシア語説教テキストのデータ解析による神秘主義的表現世界に関する基礎研究

研究課題名（英文）A database for the literary and rhetorical analysis of mystical expressions in Persian texts.

研究代表者

藤井 守男 (FUJII MORIO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90143619

研究成果の概要（和文）：

本研究は、神秘主義の発展過程からみて重要性が際立つ3つのペルシア語説教テキストの特徴を明らかにするため、独自の検索機能を設定した「ペルシア語説教テキスト文例対比データベース」を構築した。これを活用することで、13世紀の後半に頂点を迎えるペルシア神秘主義文学の形成過程に、ペルシア語説教テキストが果たした役割の学問史的な位置づけを実証的に提示することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：

This study made evident the contributions of Persian didactic texts in the development of Persian Sufi literature in 12~13<sup>th</sup> era by way of making a database for three Persian Sufi(Mystical) texts. This comparable database based on these Persian texts will facilitate the research in the area of searching of technical information and analyzing typical mystical expressions in invaluable literary-mystical texts.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2009年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2010年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2011年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
総計	16,600,000	4,980,000	21,580,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：ペルシア文学、イスラム神秘主義、ペルシア語データベース、ペルシア語神秘主義テキスト

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 中世期におけるペルシア語の説教テキストとペルシア語による神秘主義文学との関係については、近年、イランにおいて研究が進捗しており、ペルシア語説教テキストと神秘主義文学の関係を明示する研究の

学術的先端性が確認されていた。

- (2) この関連で、従来から、ペルシア語のコーラン注釈書として定評があるととともに、説教テキストとしての重要性もある『神秘の開示 *Kashf al-Asrār*』の第3部（全10巻）と、ほぼ同時代(12世紀初頭)の説教師

が書いた『精霊の安らぎ *Rawh al-Arwāh*』の本文の内容の近似性が指摘されてきており、この2つのペルシア語テキストの内容を含めた、西暦12～13世紀のペルシア語説教・神秘主義テキストに関わる総合的な実証的検討の必要性が認識されていた。

- (3) 本研究の開始に時点で、『神秘の開示』第3部（約2000頁）の全言語情報のデータベース化を完了しており（「古典期ペルシア語神秘主義テキストのデータベース化による文体論的研究」科学研究費補助金・2004～2006年度：研究代表者・藤井守男）、本研究が、これを土台として、継承・発展させることによって学術的成果が得られることが十分に期待できた。
- (4) さらに、イスラーム神秘主義に関して、イラン国内で、思想的な側面だけでなく、芸術的・文学的視点からする神秘主義研究の新たな動向が本研究着手の根本的な背景として存在した。

## 2. 研究の目的

- (1) 本研究の目的は、従来から指摘されてきた、ペルシア語の説教テキストとペルシア神秘主義文学との言語表現レベルでの係りについて実証的なデータを提供し、これを基に、ペルシア語神秘主義テキストの発展過程に関する新たな知見を提供し得る神秘主義文学研究領域を開拓する点にある。
- (2) 13世紀後半に一つの頂点を築くペルシア神秘主義文学は、イラン、アフガニスタン、中央アジア地域、さらに、かつてのペルシア語文化圏である北西インド、トルコ（アナトリア）の文化的基層を形成する点からも文化史的に重要な研究分野であり、ペルシア語説教テキストの検証の視点からペルシア神秘文学の展開の姿を実証的に提示するためのシステムの構築を土台とした研究分野の確立が本研究の狙いである。

## 3. 研究の方法

- (1) 本研究では、ペルシア語説教テキストの検証の視点からペルシア神秘文学の展開の姿を実証的に提示するためのシステムとして、「ペルシア語神秘主義テキストデータベース」を構築するため、12世紀から13世紀の期間の重要なペルシア語説教テキストに関する学術的知見を集約し、最新の研究動向を把握するため、当該研究分野の研究の中心であるイラン、さらに、ペルシア語神秘主義テキスト研究分野での成果で定評あるアメリカの研究者を積極的に招き、この意見交換で得られた最新の研究動向を踏まえつつ、データベース構築の過程に、随時、反映させる研究方法をとった。
- (2) 12世紀初頭のペルシア語説教テキスト『精霊の安らぎ』については、その言語情報をすべて入力し、この入力作業と並行して校閲作業を進めるとともに、すでに入力と校閲作業が終了していたペルシア語のコーラン注釈書『神秘の開示：第三部』の全入力データを、本研究の狙いとする「対比データベース」の構築に適応したシステム環境のデータに変換する作業を進め、このシステムの変換作業の校閲も行った。これにより、第一段階として、本研究の主眼である、『神秘の開示：第三部』と『精霊の安らぎ』との言語情報の対比を可能とするためのシステム作りを完了した。
- (3) 次に、第二段階として、大量の言語情報データの入力と校閲を繰り返す作業にかかる膨大な労力と、4年間という期間的限定のため、『神秘の開示：第三部』と『精霊の安らぎ』以外のペルシア語説教テキストの中からは、12世紀から13世紀初頭に随時、筆記されたとされる『マアーレフ *Ma'ārif*』(全2巻)を選択し、言語データすべてを入力した。これにより、本研究が、当初、作業上の目標とした、12～13世紀に著された3つのペルシア語説教テキストの全言語データの入力と校閲を完了し、ペルシア語テキストの「対比データベース」を構築した。

#### 4. 研究成果

<当該分野における本研究の先端性とインパクト>

- (1) ペルシア神秘主義文学の形成過程に重要な役割を果たした、『神秘の開示第三部』、『精霊の安らぎ』、『マアレーフ』の3つのペルシア語説教テキストに関して、相互の関連性の検索を可能にするデータベースを構築した。本データベースの構築により、従来からテキスト上の類似性が指摘されてきた『神秘の開示：第三部』、『精霊の安らぎ』の2テキストについて、言語表現上の詳細な対比が可能となり、12世紀初頭のペルシア語テキスト研究史上の課題の解決のために有効な学術的手段を世界の研究者に提供することになった。これは、従来の研究方法では困難な領域に新たな研究方法の道筋を開拓した点で画期的といえる。
- (2) 本研究2年目には、イスラーム研究、神秘主義研究の世界的権威、カリフォルニア大学バークレー校のハーミド・アルガル Hamid Algār 教授を招き、本研究の2年間の進捗状況を報告するとともに、その後の本研究の方向性と学術的意義と成果について貴重な意見交換ができた。本研究を通じてのアルガル教授の招聘は、我が国のペルシア語テキスト、イスラーム神秘主義（スーフィズム）研究者とアルガル教授との交流の機会を設けることができ、我が国の当該分野における世界に向けたプレゼンスの向上に寄与した。
- (3) 本研究においては、ペルシア語神秘主義テキスト研究の分野で定評あるイラン国内の研究者とは、随時、意見交換をして進めてきており、イラン国内で生み出された当該研究分野の最新情報の把握の経路は、本研究の実施を通じてさらに強化された。本研究の成果の学術的側面での共有のため、最終年度において、イランから当該分野の世界的研究者である、人文学研究所教授のプールナムダーリヤーン教授、近年、とりわけ、神秘主義テキストの校訂作業が注目されるミールバーゲリーファルド教授を招き、シンポジウム“Creating Database for Mystical

Persian Texts”を開催した（2012年12月10日、11日）。シンポジウムでは、本研究で構築された「ペルシア語神秘主義文例対比データベース」を実際に活用し、『神秘の開示：第三部』と『精霊の安らぎ』の文例の対比を例として、本研究の成果発表を行い、テキスト間の相互関係に関わる検索の精度と質、さらに、本データベースを活用したテキスト分析の具体的な提案などがなされた。本研究の目指す方向性は当該分野の拠点であるイランにおいて高く評価された。

- (4) 本研究の対象としたペルシア語テキストが、今後、校訂が進められる際に、ペルシア語テキストの刊本情報が完全に入力されている本データベースは、校訂作業にも有効に機能すると考えられ、この点からも、膨大な作業を通じて得られた本研究の成果は、当該分野のテキスト校訂にも有効に機能することが十分期待される。

<本研究の今後の展開と学術的発展性>

本研究は、ペルシア神秘主義テキスト研究を通じて、ペルシア神秘主義文学の発展過程を実証的に記述し、これを通じてペルシア語文化圏の基層理解を深めることを最終的な目標としており、その点で、本研究での作業は、研究の将来を見通した上での基礎的研究として位置づけられる。今後も、多様なペルシア語説教テキストをデータ化し、ペルシア語説教・神秘主義テキストにおける「間テキスト研究」の新たな研究分野を創出することで、この研究の延長線上に、13世紀半ばから後半にかけて生み出されるペルシア語神秘主義テキストの言語表現上の特質と内容の変遷の本格的な記述が可能となる。本研究においては、そうした研究の将来像を踏まえ、すでに、13世紀の半ばに説教師によって執筆された『下僕たちの大道 *Mirsād al-'Ibād*』の入力を開始した。13世紀後半以降はペルシア語神秘主義テキストの内容に新たな神秘哲学的傾向が現れることから、今後は、12、13世紀のペルシア語神秘主義テキストを軸として、これ以前の

11 世紀、および、これ以降の 14、15 世紀のテキストも検討の対象に見据えつつ、ペルシア語神秘主義テキストに関わる研究をさらに発展させていく計画である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 佐々木あや乃、「ハーフェズ注解 (7)」2011 年、東京外国語大学論集、205-225. (査読なし) .
- ② 佐々木あや乃 「ハーフェズ注解 (6)」2009 年、東京外国語大学論集、1121-141. (査読なし) .
- ③ 佐々木あや乃 Tahawwul-i Istilahat-i Irfani: Muqayisih-yi Sharh-i Ta'arruf li Mazhab al-Tasawwuf ba Kashf al-Asrar wa 'Uddat al-Abrar (wa Istifadiah az Dadih-yi Kampiyutiri-yi Kashf al-Asrar wa 'Uddat al-Abrar; al-Nawbat al-Thalitha), *Ayene-ye Miras*, 2008, 392-403. (査読なし) .

[学会発表] (計 3 件)

- ① 佐々木あや乃 A Comparative Study on Sufi Terms in *Rawh al-arwah* and *Kashf al-asrar*; Creating Database for Mystical Persian Texts, 2011 年 12 月 11 日、東京外国語大学.
- ② 藤井守男・森島聡、“Sam’ ani’ s Daidactic and Mystical Doctrine in *Rawh al-arwah*” & “Technical Support for Creating a Database for Persian Mystical Texts” 2011 年 12 月 11 日、東京外国語大学.
- ③ 佐々木あや乃 “The Research on Persian Sufi Texts in Tokyo University of Foreign Studies”, A Lecture Meeting by a Foreign Guest, 2011 年 9 月 18 日、フェルドウスイー大学 (イラン) .

[図書] (計 3 件)

- ① 佐々木あや乃 「ハーフェズの詩的世界における「酒」」『バックナリア 酒と文学の饗宴』(沓掛良彦・阿部賢一編) 2012 年、成文社、233-264.
- ② 藤井守男 「スーフィズムとイラン」『イランとイスラム』共著 森茂

男編、2010 年 6 月、春風社、98-111.

- ③ 佐々木あや乃 「14 世紀イランの詩人ハーフェズとその人間観」2010 年 6 月、春風社、284-98.

[その他]

ホームページ等

「ペルシア語説教テキストのデータ解析による神秘主義的表現世界に関する基礎研究」

<http://kashf-al-asrar.tufs.ac.jp/per/>

「ペルシア語神秘主義文学テキストデータベース」

<http://irfan-lit.tufs.ac.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤井 守男 (FUJII MORIO)  
東京外国語大学  
総合国際学研究院・教授  
研究者番号：90143619

### (2) 研究分担者

佐々木 あや乃 (SASAKI AYANO)  
東京外国語大学  
総合国際学研究院・  
准教授  
研究者番号：60272613